

新たな無人化施工技術の実証評価実験を実施

～紀伊山系砂防事務所のフィールドを提供～

企画部 施工企画課
紀伊山系砂防事務所

近年の集中豪雨等による災害現場での水際や半水中部に対応可能な無人化施工の新展開として、次世代無人化施工技術研究組合*により遠隔操作による半水中作業システムの研究開発が行われており、紀伊山系砂防事務所管内の赤谷地区河道閉塞（天然ダム）箇所を実験フィールドとして提供し実証評価実験を実施しました。

当日は、マスコミや整備局職員向けに、天然ダム湖岸を実験フィールドとし水深1.5mの水際で、不整地運搬車に土砂を積載した状態で遠隔操作による走行実験を行いました。

*次世代無人化施工技術研究組合は、（国研）土木研究所、（一財）先端建設技術センター、（一社）日本建設機械施工協会、ゼネコン・メーカーなどからなる20社より構成

1. 遠隔操作室での説明



次世代無人化施工技術研究組合の油田理事長による遠隔操作型重運搬ロボットの開発説明。



＜モニターを見ながら操作スティックにより操作＞
モニターには遠隔操作機械の位置、向きの情報や進行方向、車体傾斜などを表示。

2. フィールドでの実験状況



＜天然ダム湖岸（水深約1.5m）の走行状況＞
水底の起伏をレーダーにて確認しながら、遠隔操作にて水中走行。



【参加者の感想】

- ・ 様々な計器やモニターを見ながらの操作のため難しそうに思った。
- ・ 危険が伴う水際の災害現場においては非常に役に立つ重機であると思った。

- 実施日：12月8日（金） 15:00～16:30
- 場所：赤谷地区現場（五條市大塔町）
- 主催：次世代無人化施工技術研究組合（UC-Tec）
- 参加人数：約30名
- 参加者：新聞社 3社、企画部施工企画課、河川部河川工事課、紀伊山系砂防事務所、施工業者

【問い合わせ先】



国土交通省 近畿地方整備局
紀伊山系砂防事務所 工務課
〒637-0002 五條市三在町1681
TEL 0747-25-3110（代表）